

ANNOUNCEMENTS

I. The 37th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics, 1992

The 37th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics was held on October 29–31, 1992 at the University Hall of the Tsukuba University, Tsukuba, Ibaraki. Professor Hideo Hamaguchi, Department of Medical Genetics, Institute of Basic Medical Sciences, University of Tsukuba, acted as president at the Annual Meeting. Five hundred and nineteen members participated in the meeting.

The academic program consisted of one plenary lecture, 2 symposia, and, 216 oral and concurrent poster presentations by active members. Professor Kiyoji Tanaka, Institute for Molecular and Cellular Biology, Osaka University, who was the winner of the Japan Society of Human Genetics Award for 1992, gave the memorial lecture entitled "Molecular analysis of xeroderma pigmentosum group A gene." Dr. Takashi Shimada, Department of Biochemistry, Nippon Medical College, gave the special lecture, entitled "Present status of human gene therapy." The first symposium, entitled "Genetic diseases" was co-chaired by Professor Norio Niikawa, Department of Human Genetics, Nagasaki University School of Medicine, and Dr. Yoshimitsu Fukushima, Division of Medical Genetics, Saitama Children's Medical Center, consisting of Part I (Mechanisms of disease onset) and Part II (Present status and prospects of clinical applications), in which 4 and 2 papers were presented, respectively. Dr. Yusuke Nakamura (Department of Biochemistry, Cancer Institute) chaired the 2nd symposium, entitled "Cancer," in which 3 papers were presented and discussed.

Abstracts of the two symposia, lectures, 168 oral presentations and 48 poster exhibitions will be printed in this issue (Vol. 38, No. 1, 1993) of the *Journal*.

The Meeting of the Board of Directors of the Japan Society of Human Genetics was held on October 28 at the Tsukuba Dai-ichi Hotel in Tsukuba. The agenda of the meeting consisted of the following: 1) Nomination of the president of the 39th Annual Meeting of the Society; 2) The budget of the Society for fiscal year 1993; 3) Report from the committee for review of the rules of the Society; 4) A new preparatory committee for establishment of a qualification system for specialists in medical cytogenetics. Reports were prepared on the following subjects: 1) Arrangements for the 37th Annual Meeting; 2) Issue of a new membership list of the Society, and numerical changes in Society membership; 3) Financial report and audit; 4) Status of submission and acceptance of manuscripts for the *Japanese Journal of Human Genetics*; 5) A committee report on the qualification system for specialists in medical genetics; 6) A committee report on the promotion of human genetics teaching; 7) The Japan Society of Human Genetics Award 1992 and the 1992 Award for encouragement of younger human geneticists in the Society; and 8) Reports on the National Committee of Medical Genetics and the National Committee of Genetics of the Japan Science Council.

Subsequently, the Council of the Japan Society of Human Genetics was held at the same hotel to discuss the agenda proposed by the Board of Directors.

The general assembly of the Japan Society of Human Genetics was called on October 30 at the Dai-ichi Kaikan of Tsukuba University. Professor Yasuo Nakagome, Depart-

ment of Human Genetics, School of International Health, Tokyo University, was nominated to preside at the 39th Annual Meeting which will be held in Tokyo in the fall of 1994. The subjects drafted by the Board of Directors and approved by the Council of the Society were passed in their original forms at the conference.

The agenda and reports presented at the conference are described below in more detail (in Japanese).

II. 日本人類遺伝学会第 37 回 (1992) 大会記事

会 場 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学・大学会館
 会 期 平成 4 (1992) 年 10 月 29 日 (木)~31 日 (土)
 大会会長 浜口秀夫教授 (筑波大学・基礎医学系・遺伝医学部門)
 発 表 シンポジウム

1. 遺伝性疾患

司会：新川詔夫 (長崎大学・原研), 福嶋義光 (埼玉県立小児医療センター)

2. がん

司会：中村祐輔 (癌研究所・生化学)

一般講演 216 題 (口演 168 題, ポスターセッション 48 題)

第 1 日 (10 月 29 日)

浜口大会会長による開会の辞に引き続き, 午前中は 3 会場で一般演題の研究発表があった。また, 演題発表と並行して自由参加の染色体検査懇話会が開かれた。昼休みには編集委員会が開かれた。午後は 3 会場で一般演題の発表が継続され, その後シンポジウム I が行われた。夜は教育委員会と遺伝医学セミナー委員会が開催された。

第 2 日 (10 月 30 日)

午前是一般演題の発表があった。昼休みに認定医制度委員会が開かれた。午後は 3 会場でポスターセッション討論が行われた。引き続き総会議事, 学会賞と学会奨励賞の授賞式および恒例の写真撮影が行われ, その後, 松原洋一氏による学会奨励賞受賞講演, 田中亀代次氏による学会賞受賞講演, ならびに島田隆氏による特別講演があった。夜はホテルグランド東雲において恒例の懇親会が盛大に催された。

第 3 日 (10 月 31 日)

午前中に 3 会場において一般演題の発表があり, 次いでシンポジウム II が行われた。最後に浜口大会会長の閉会の辞をもって全日程を終了した。

大会への会員参加は, 3 日間を通して 519 名 (名誉会員 1 名, 評議員 53 名, 一般会員 437 名, うち当日会員 28 名), 会員外の特別講演者 1 名, 会員外のシンポジスト 2 名, 会員外の当日参加者 5 名 (うち外国人留学生 4 名), 合計 527 名であった。一般演題数は 216 題の過去最多数に達し, それぞれの研究領域で活発な討論が行われた。

理事会

日 時：平成 4 (1992) 年 10 月 28 日 (水) 14:30~16:30

場 所：筑波第一ホテル

出席者：三輪理事長, 浜口 (大会会長)・梶井 (認定医制度委員会委員長)・中込 (編集委員長)・松永・

笹月 各理事, 外村・今村両監事, 岡嶋会則検討委員会委員長, 近藤(喜)教育推進委員会委員長, 福山次期大会会長, 安河内(会計)・池内(庶務)・黒木(編集)各幹事

報告事項

1. 第 37 回大会会長報告(浜口)
2. 庶務報告(会員の移動状況)(池内)
3. 平成 3 年度会計報告, 平成 4 年度同中間報告, 平成 5 年度予算案(安河内)
4. 平成 3 年度会計監査報告(外村, 今村)
5. 委員会報告
 - 1) 学会賞選考委員会(三輪), 2) 編集委員会(中込, 黒木), 3) 会則等検討委員会(岡嶋), 4) 認定医制度委員会(梶井), 5) 教育推進委員会(近藤)
6. 日本医学会評議員会(笹月)
7. 日本学術会議(三輪)
8. 第 38 回大会(平成 5 年度)の準備状況(福山)
9. 第一回中日医学遺伝学大会(北京)の報告(三輪)

協議事項

1. 維持会員募集のための趣意書作成について(浜口)
2. 平成 6 年度(1994 年)大会の開催地について
3. 認定医のメリットについて(梶井)
4. 学会の大会会員(仮称)の提案(梶井)
5. 染色体検査技術の認定制について(池内)

評議員会

日時:平成 4 (1992) 年 10 月 28 日 17:00~19:30

場所:筑波第一ホテル

出席者:53 名

I. 報告事項

1. 浜口大会長より, 第 37 回大会の開催と準備状況について報告があった。
2. 庶務報告

本年 3 月にアンケート方式で行われた会員登録の全面改正と, それに基づいて新たに作成された会員名簿についての報告がなされた。また会員数状況(平成 4 年 8 月 31 日現在)が報告された(資料 1)。
3. 会計報告

平成 3 年度会計報告(資料 2)および平成 4 年度会計中間報告があった(資料 3)。引き続き平成 3 年度会計報告の監査報告がなされ承認された。
4. 委員会報告
 - 1) 学会賞選考委員会:3 月 13 日に開催された学会賞選考委員会の審議結果について報告された(本誌 37 巻, 169 頁, 1992, 参照)。
 - 2) 編集委員会:本誌の発行状況, 表紙の新装, ならびに論文の投稿および受理状況について報告された。
 - 3) 認定医制度委員会:梶井委員長より, 1 年間の活動状況が報告された。また現行の委員 5 名に加え, 辻・新川の 2 氏にも委嘱したい旨の提案があり, 諒承された。
 - 4) 教育推進委員会:近藤委員長より, 委員会の活動状況と今後の展望について報告がなされた。

- 5) 日本医学会評議員会：笹月評議員より、2月25日に開かれた第59回評議員会で会長・副会長の役員改選が行われた旨の報告があった。
- 6) 日本学術会議：松永理事より第15期の日本学術会議・遺伝学研連委員会（第4部）の活動状況が報告された（本誌，学会記事，VI，参照）。また，日本学術会議遺伝医学研連と微生物学研連の主催で，公開シンポジウム「ヒト分子遺伝学の現状と将来」（本誌37巻，241頁，1992，参照）が平成5年1月11日（月）に開催されることになった旨の報告があった。
- 7) 平成5年度大会準備状況報告：第38回大会は平成5年10月21日（木）～23日（土），東京都千代田区平河町・全共連ビルを主会場に，一部を日本都市センターで開催予定である旨，福山（東京女子医大小児科）次期大会会長より報告された。
- 8) 第一回中日医学遺伝学大会：標記大会が，平成4（1992）年10月8日（木）～10月12日（土）に中国北京にて開催され，日本からは70余名の参加があり（演題数：中国側50，日本側50），盛大でかつ有意義であったことが報告された。
- 9) 第二回遺伝医学セミナー：新川評議員より，平成4（1992）年9月11日（金）～13日（日）に大阪市立労働会館にて標記セミナー（受講者数180名）が開催され，その状況が報告された。
- 10) 染色体検査懇話会：池内評議員より，染色体検査技術に関する認定制度の設立について検討するための標記懇話会が，昨年度大会（山口）で設けられ，さらに今後に向けた準備委員会の設立について本年度第一回理事会（9月26日）で承認された旨，報告があった。
- 11) 三輪理事長より，平成4年度日本医師会医学賞・医学研究助成費候補推薦，および日産学術研究助成候補推薦について，本学会からの推薦状況が報告された。
- 12) その他：今泉評議員から，6月22日（月）～25日（木）に東京医科大学病院で開催された第7回国際双生児研究会議について，また清水評議員より，1993年にわが国で開催される Human Gene Mapping Workshop 93 (HGM93) および Chromosome Coordinating Meeting 93 (CCM93) についてそれぞれ報告があった。

II. 協議事項

1. 理事長より，維持会員募集のための趣意書作成について提案があり，諒承された。
2. 第39回大会会長として，中込弥男教授（東京大学大学院医学系研究科，人類遺伝学講座）にお願いしたい旨，理事長より提案があり，諒承された。
3. 平成5年度学会予算案（資料4）が協議され，原案どおり諒承された。
4. 会則等検討委員会の岡嶋委員長より，次の5項目より成る委員会報告について説明があった：
 - 1) 会則第五条の入会手続き，および会則第十四条の評議員の選出方法についての会則改正；
 - 2) 役員選出に関する内規；
 - 3) 役員選出実施要領；
 - 4) 役員の任期に関する申し合わせ，および
 - 5) 申し送り事項。種々討議の結果，原案どおり諒承された。

総 会

日 時：平成4（1992）年10月30日（金） 14：00～15：00

場 所：筑波大学・大学会館

I. 報告事項

1. 浜口大会会長から，第37回大会運営についての状況報告があった。
2. 庶務報告：会員登録の改正と，それに基づいた会員名簿が作成されたこと，ならびに過去5年間の会員数の状況が報告された。
3. 会計報告：平成3年度会計報告と平成4年度同中間報告があった。
4. 引き続き平成3年度会計監査報告がなされ承認された。
5. 委員会報告：学会賞選考委員会，編集委員会，会則等検討委員会，認定制度委員会，教育推進委員会について，それぞれ報告があった。

6. 理事担当事項等報告：日本学術会議，日本医学会評議員会，第一回中日医学遺伝学大会(北京)，その他についての報告がなされた。
7. 平成 5 年度大会準備状況：福山次期大会会長からの報告があった。
8. 第二回遺伝医学セミナー：平成 4 (1992) 年 9 月 11 日～13 日に大阪で開催されたセミナーの状況が報告された。
9. 染色体検査懇話会：本懇話会が設けられた経緯と活動状況について，ならびに染色体検査技術認定制度設置準備委員会の発足が理事会において承認されたことについての報告があった。なお，準備委員として池内(委員長)，福嶋(義)，佐藤(孝)，坂本(博)，金子(安)各評議員，井上(信)，岡野(哲)各会員の 7 名が委嘱された旨，報告された。
10. 研究助成金の学会推薦：平成 4 年度日本医師会医学賞・医学研究助成費候補および日産学術研究助成候補について，本学会からの推薦状況が報告された。

II. 協議事項

1. 維持会員募集のための趣意書作成についての提案があり諒承された。
2. 第 39 回大会(平成 6 年度)は，中込弥男教授(東京大学大学院医学系研究科，人類遺伝学講座)を大会会長として東京で開催する旨の報告があり，諒承された。
3. 平成 5 年度学会予算案について協議され，原案どおり諒承された。
4. 会則等検討委員会の最終報告(会則改正，役員選出に関する内規)(資料 5)について協議され，原案どおり諒承された。

(庶務幹事 池内達郎)

[資料 1]

年度別・会員数の推移(過去 5 年間)

		平 4 92・8・31	平 3 91・8・31	平 2 90・12	平 1 89・12	昭63 88・12	昭62 87・12
国 内 会 員	普通会員	1,333	1,090	990	975	924	903
	〃(学生)	0	119	87	69	67	51
	名誉会員	15	15	16	18	19	20
	維持会員	3	3	3	4	3	3
	団体会員	80	81	80	84	84	84
	寄贈・交換	9	9	9	9	9	9
	合計	1,440	1,317	1,185	1,163	1,106	1,074
海 外 会 員	普通会員	30	33	31	25		
	名誉会員	11	11	11	8		
	寄贈・交換	11	11	11	11		
	合計	52	55	53	44		
	総合計	1,492	1,372	1,238	1,207		

[資料 2]

平成 3 年度会計報告 (1/1/91~12/31/91)

収入		支出	
前年度繰越金	2,412,897 円	雑誌刊行費	5,342,803 円
会費	6,628,053	雑誌発送費	310,448
雑誌売上代	499,430	雑誌編集費	350,000
論文掲載料	570,350	大会補助金	300,000
広告掲載料	297,479	I G F 会費	36,505
文部省科研費	1,220,000	事務費	2,481,620
医師会助成金	200,000	会議, 旅費	500,507
預金利子	352,373	人件費	560,000
抄録使用料	10,712	認定医関係	390,961
		次年度繰越金	7,502,865
計	12,191,294 円	計	17,775,709 円
	(実収入 9,778,397 円)		(実支出 10,272,844 円)

実収入 9,778,397 円 - 実支出 10,272,844 円 = △494,447 円

[資料 3]

平成 4 年度会計中間報告 (1/1/92~10/27/92)

収入		支出	
前年度繰越金	7,502,865 円	雑誌刊行費	5,452,945 円
会費	7,577,040	雑誌発送費	155,278
雑誌売上代	274,450	雑誌編集費	350,000
論文掲載料	455,950	大会補助金	500,000
広告掲載料	100,000	I G F 会費	36,390
文部省科研費	840,000	事務費	462,275
抄録利用料	4,944	会議, 旅費	382,458
預金利子	9,025	人件費	475,000
認定医立替払戻し	690,961		
計	17,455,235 円	計	7,814,346 円
	(実収入 9,952,370 円)		(実支出 7,814,346 円)

[資料 4]

平成 5 年度予算案

収入		支出	
前年度繰越金	2,000 千円	雑誌刊行費	5,300 千円
会費	7,700	雑誌発送費	300
雑誌売上代	400	雑誌編集費	350
論文掲載料	500	大会補助費	500
広告掲載料	100	I G F 会費	40
文部省科研費	900	事務費	2,360
医師会助成金	200	会議旅費	450
預金利子他	100	人件費	600
		予備費	2,000
合計	11,900	合計	11,900

[資料 5] 会則等検討委員会最終報告

I 会則改正

会則第五条の入会手続きを下記のように変更する。

[現行規則]

本会に入会しようとするものは所定の申込み用紙に必要事項を記入し、評議員 1 名の推薦状と当該年度会費を添えて本会の連絡先；東京都文京区本駒込 5-16-9 (〒113) 日本学会事務センターに提出する。

[改正案]

本会に入会しようとするものは所定の申込み用紙に必要事項を記入して本会の連絡先；東京都文京区本駒込 5-16-9 (〒113) 日本学会事務センターに提出する。

会則第十四条を改正し、評議員の選出方法を下記の下線部のように改める。

[現行規則]

会則第十四条
役員の選出は選挙管理委員会を設けて次の方法によって行う。評議員は全国を北海道、東北、関東、中部、近畿、中国四国、九州の 7 地区に分け、各地区ごとに国内在住の普通会員の互選による。地区内の普通会員数 10 名またはその端数ごとに評議員 1 名を選出するものとする。他に 20 名以内に限り理事長が評議員を委嘱することができる。理事および監事は評議員の互選による。理事長は評議員の投票により理事の中から選出する。幹事は理事長の委嘱による。

[改正案]

……地区内の普通会員数 15 名またはその端数ごとに評議員 1 名を選出するものとする。……

II 役員選出に関する内規

役員選出に関して下記の内規を設ける。

役員選出に関する内規

- 第 1 条 評議員の選挙権を有するのは前年度までに会員の資格を得ていた者とする。
- 第 2 条 評議員の被選挙権を有するのは前年度までに 4 年以上の会員歴を有する者とする。
- 第 3 条 評議員の選挙において、定員を超える同数得票者が生じた場合は何れも当選とする。
- 第 4 条 理事の選挙において、定員を超える同数得票者が生じた場合の選出は理事長に一任する。
- 第 5 条 理事長の選出は投票数の過半数とし、最初の投票で過半数に達する者がいないときは、上位 2 名の決選投票を行う。その結果同数となった場合は、初回の選挙において得票数の多かった者を当選者とする。

III. 平成4年度第1回理事会

日時：平成4(1992)年9月26日(土) 12:30~17:00

場所：東京医科歯科大学 一号館 9階

出席者：三輪理事長，梶井(認定医制度委員会委員長)・中込(編集委員長)・浜口(第37回大会会長)・松永・松田(一)各理事，今村監事，岡嶋(会則等検討委員会)・近藤(喜)(教育推進委員会)各委員長，安河内(会計)・黒木(編集)・池内(庶務)各幹事

報告事項

1. 三輪理事長より，名誉会員の沖中重雄氏(本誌37巻，169頁，1992，参照)および村上氏廣氏(本誌38巻，157頁，1993，参照)の御逝去が報告された。
2. 三輪理事長より，北川照男教授(日本大学駿河台病院小児科)が紫綬褒章を受章された旨報告された(本誌37巻，169頁，1992，参照)
3. 編集委員長より，前期より4名多い36名が編集委員として委嘱された旨報告があり，学会誌の刊行状況，投稿・受理状況が報告された。
4. 会計幹事より，平成3年度会計報告，平成4年度会計中間報告がなされた。
5. 庶務幹事より，会員登録の改正作業が終わり，新たな会員名簿が発行されたこと，およびその経過について報告された。
6. 本年度大会の準備状況について浜口大会長より報告があった。
7. 本年3月13日に開催された学会賞選考委員会の審議結果が報告された(本誌37巻，169頁，1992，参照)。
8. 認定医制度委員会の現在の活動状況と，現行の委員5名に加えて新たに2名(辻・新川各評議員)を追加したい意向であることが梶井委員長より報告され，諒承された。また，第二回遺伝医学セミナー(9月11日~13日)の実施状況も報告された。
9. 教育推進委員会のこれまでの活動状況と今後の予定について，近藤委員長より報告され，意見が交わされた。
10. 昨年度大会で開催された染色体検査懇話会の状況とその後の経過が，池内幹事より報告され，染色体検査技術に関する認定制度の設立を検討するための準備委員会を本年度大会会期中に設置したい旨の提案があり，承認された。
11. その他，三輪理事長より，第一回中日医学遺伝学大会の準備状況，研究助成金の学会推薦について，報告された。

協議事項

1. 維持会員募集の方策について協議された。
2. 平成6年度第39回大会の開催地について複数の候補が挙げられ，協議された。
3. 会則等検討委員会報告の原案が，岡嶋委員長より提示された。協議の上，原案の一部が修正され，本年度大会会期中の評議委員会および総会に諮ることとなった。(庶務幹事 池内達郎)

IV. 選挙管理委員会の委員長および委員の委嘱について

本年度は役員選出を行う年にあたるので選挙管理委員会を発足する必要がある。本委員会委員および委員長はその都度理事長が委嘱することと定められている。そこで中込弥男，黒木良和，安河内幸雄，池内達郎の4名を委員に，うち中込弥男を委員長に委嘱した。(理事長 三輪史朗)

V. 第4回日本微量元素学会 予告

会 期：平成5年7月3日(土)～4日(日)

会 場：自治医科大学研修センター

〒329-04 栃木県河内郡南河内町薬師寺 3311-1 電話 0285-44-2111, FAX 0285-44-8465

JR東北線(愛称宇都宮線)自治医大駅下車, 徒歩7分, バス2分

プログラム

第1日

教育講演「臨床研究における疫学方法論」柳川 洋(自治医科大学公衆衛生学教授)

ポスター 要望課題：1) 測定法の開発, 2) 微量元素と病態, 3) 相互作用を利用した微量元素代謝異常の治療, 4) 治療薬としての金属錯体開発, 5) 微量元素代謝異常モデル動物

会長講演「カドミウムによる腎機能異常：発症機序と治療」野見山一生(自治医科大学衛生学教授)

第2日

教育講演「測定の精度管理」自治医科大学臨床病理学教授 河合 忠

シンポジウム「微量元素の所要摂取量」

演者：木村修一(東北大学農学部栄養化学教授), 糸川嘉則(京都大学医学部衛生学教授), 香川靖雄(自治医科大学学生化学教授)

シンポジウム「微量元素と病態」

演者：松田一郎(熊本大学小児科教授), 岡田 正(大阪大学小児外科教授)

連絡先：〒329-04 栃木県河内郡南河内町薬師寺 自治医科大学衛生学教室内

第4回日本微量元素学会事務局 電話 0285-44-2111 内線 3139, 3140, FAX 0285-44-8465

VI. 日本学術会議・遺伝学研究連絡委員会(第4部)

第15期の上記委員会は、遺伝学会・人類遺伝学会・環境変異原学会から推薦された10名に、委員長(学術会議会員・京大農・常脇恒一郎教授)推薦枠の4名を加えた14名の委員で構成されている。今期の活動方針として、前期研連からの申し送りを踏まえ、主としてDNAデータベースと生物系統保存体制の整備について検討することとした。すでに3回の会合が開かれたが、目下、国立遺伝学研究所が貧弱な予算で担当しているDDBJ(DNA Data Bank of Japan)の地位を、米国および欧州のDNAデータベースと対等のものにする必要があるとの点で意見が一致し、そのための方策をまとめた報告書を学術会議に提出すべく、準備を進めている。(理事 松永 英)

VII. 名誉会員の訃報

本学会名誉会員 村上氏廣先生には、1992年9月15日、パーキンソン症候群にて逝去されました。ここに謹んでお悔み申し上げます。(理事長 三輪史朗)

VIII. 認定医の第三回認定について

臨床遺伝学認定医制度による認定医の申請は、1992年9月30日に募集、76名の応募があった。

1992年10月28日に認定委員会（出席者：梶井，黒木，浜口，福嶋，日暮，辻，新川の各委員；三輪理事長）を開催し，全員を認定医として承認した．認定した76名のうちわけは評議員（指導医）7名，評議員以外の指導医42名，一般の認定医27名である．認定医総数は213名に達した．
認定医（応募順，○は指導医）

横山裕司	○本多達雄	○三浦偉久男	○梶井英治	○田中あけみ
○土屋 滋	○小田琢三	○中村祐輔	○大屋敷一馬	○長谷川潔
○西庄 勇	大島章弘	宮崎純一	○香山文美	大竹 明
○杉尾賢二	○呉 繁夫	○吉尾博之	近藤達郎	大橋博文
堀田善裕	○東 紘一郎	○名取徳彦	○木村博司	渡辺 博
○中堀 豊	○服巻保幸	○松原洋一	○堀池重夫	○埴野吉広
○十字猛夫	○松本雅彦	○井出 透	○大野耕策	上原茂樹
高柳正樹	○三上貞昭	五十嵐美衛	○増田健二郎	○島倉八恵
○西田善彦	塚本浩子	藤原正貴	○新井尚賢	○高橋弘明
末広 正	○山本佳史	○井谷舜郎	○鶴原常雄	○藤枝憲二
○家島 厚	○亀山順治	○平原史樹	高田史男	池谷紀代子
藤森 新	木村彰方	○谷脇雅史	○宮川公子	○沼野藤夫
○橋本知子	○新宅裕子	平山幹生	○大和田操	又吉國雄
○里方一郎	信國好俊	三淵 浩	衛藤雅昭	○岡野善行
○新平静博	中川 均	○重清俊雄	新宅治夫	林 和彦
竹本優次				

なお，従来の認定医中，下記の11名は会員歴（5年以上）または医師歴（10年以上）の規定に達したので，指導医として認定した．

○外木秀文	○原口洋吾	○松本孝澄	○中永昌夫	○横井 透
○山口清次	○升野光雄	○菊池 白	○佐藤寿一	○菅野 仁
○湯沢賢治				

以上で，指導医の総数は167名に達した．

（梶井 正）

臨床遺伝学認定医の恒久制度による研修開始

上記の開始届（第二回）は1992年4月1日～12月31日の間に34名を受付，同年10月30日，1993年1月9日開催の認定委員会で下記の34名の研修開始を承認した．第一回，第二回を併せて，研修医の総数は68名に達した．（応募順）

伊藤道徳	阿部康二	秋坂真史	松田貴雄	副島英伸
有山武志	川野 豊	高田五郎	蒔田芳男	伊藤雅彦
飯田 卓	木住野達也	大和竜夫	渡辺順子	吉田光典
岡本伸彦	服部優子	難波栄二	小野木哲	西野共子
曾根 翠	野中和明	川目 裕	小黒範子	藤井喜充
白河義久	宇田川敦子	木村正彦	永田 新	堀川博誠
渋谷好孝	守内哲也	森田玲子	太田 聡	

68名中，1992年度の遺伝医学セミナーには39名が参加，10月の大会（筑波市）には20名が参加した．

（梶井 正）

臨床遺伝学認定医制度研修施設の第三回認定

新たに2施設の申請があり、審査の上認定した。認定期間は1993年（平成5年）4月1日～1998年（平成10年）3月31日である。従来認定した45施設に加えて、47施設に達した。このうち研修医の在籍しているのは17施設である。

臨床遺伝学認定医制度研修施設

施設番号	施設名	指導責任医
29	横浜市立大学医学部 同附属病院	平原史樹（産婦・講師）
37	金沢大学医学部	横井 透（小児・助手）

日本人類遺伝学会・臨床遺伝学認定医（恒久制度による）を志す方へ

日本人類遺伝学会・臨床遺伝学認定医（以下、認定医とよびます）制度は、1990年8月の日本人類遺伝学会総会において承認され、1991年（平成3年）4月から施行、発足し、この制度で定められた研修施設における認定医になるための臨床研修が始められました。

以下の解説は、これから臨床研修を積んで認定医になろうと志す方々のために作成しました。認定医制度の基本精神と制度の概要をよく理解されて、なるべく多数の方々が本制度に参加なさるよう希望します。手続きの実際等も記載してありますので、十分お目通しになり、手違いのないようご注意ください。

制度の概要

1994年3月31日までは、経過措置として暫定制度による認定の方法がありますが、この制度は1991年3月31日以前に会員となっている方を対象としていますので、1991年4月1日以降に会員となる方には適用されません。従って、暫定制度は省いて本来の制度（恒久制度とよびます）だけについて、説明します（ただし経歴によっては、まだ暫定制度による認定を受けられる場合もありますので、詳細は認定医制度に関する規則、施行細則を御参照ください）。

1) 認定の基準：認定医となるためには、次の資格が必要です。

- ① 日本人類遺伝学会が審査、指定した研修施設・関連施設において学会が定めたカリキュラムにそって3年以上臨床研修をしたこと（研修施設に在籍しない者については、別に定める規定に従って前記と同等の研修をしたこと）。
- ② 認定申請時において、引続き3年以上、日本人類遺伝学会会員である医師であること。
- ③ 遺伝医学に関係した筆頭者としての学会発表または論文が2編以上あること。

以上の条件を充した者は認定委員会に申請し、認定試験に合格すれば認定医となることができません。認定申請には、認定医申請書の他に次の書類と20,000円の審査料を添えて、委員会に提出することになっています。

- ① 履歴書、臨床記録および研究業績記録（第4号様式）、② 医師免許証（写）、③ 研修施設における研修（修了）証明書、④ 遺伝性疾患患者リスト。

この審査は、1994年（平成6年）4月1日以降に実施されますが、臨床研修は1991年（平成3年）4月1日から始められることになっています。

2) 研修施設および研修関連施設：臨床研修を行う研修施設、研修関連施設は次のような条件が必要です。

- ① 研修施設：認定委員会が審査して指定する。一定のカリキュラムが作成されていて、それにそった研修が実施できる設備、人員を備え、指導責任医が定められている施設でなければならない。大学病院、大病院だけでなく、基準に適合した施設なら、指定が受けられる。
- ② 研修関連施設：上記の研修施設の指導責任医が研修に適切と考え、あらかじめカリキュラムに組み込み、届け出た施設ならば差し支えない。臨床遺伝学における基礎知識の重要性を考え、基礎的部門における研修を1年に限り、関連施設における研修として認めます（あらかじめ届け出なくてもよい）。

研修目標：「認定医の到達目標」（後記）が、研修の目標とされています。指定研修施設では、これにそった臨床研修ができるよう、カリキュラムが作られているので、それに従ってください。

学会の認定した研修施設以外の施設に在籍する医師の研修

- 1) 研修期間中に少なくとも1回は人類遺伝学会総会に出席し、少なくとも2回は遺伝医学セミナーを受講すること。
 - 2) 3年間の研修期間中、少なくとも1年間は研修施設またはその関連施設（基礎部門も含む）で研修することが望ましい。
- 1), 2) を以て認定の基準①に替える。

研修の実施上とくに注意すべき諸点：臨床遺伝学認定医を目指して、研修を開始される場合、次の点にとくに御注意ください。

- 1) 御自分の研修を受けている病院等が、学会の指定研修施設または研修関連施設になっているかどうか、確かめてください（1992年4月1日までに指定された研修施設は本誌37巻1号に掲載しています）。

2) 認定医となるため臨床研修を始めて3か月以内に、研修開始届（第15号様式）を認定委員会に御提出下さい。この提出がないと、正規の臨床研修と、後になってから遡って認められませんので、絶対に忘れないようくれぐれも御注意ください。

研修開始届は本誌36巻1号に収載の用紙を利用するか、または認定医制度委員会にご請求ください。

- 3) 臨床研修が完了し、認定医を申請する際には、研修記録（第4号様式）を委員会に提出することになっていますので、研修事項はその都度記録しておくようにしてください。
- 4) 認定の条件として、学会会員歴が引続き3年以上（恒久制度）必要です。
- 5) 認定医の申請手続きの詳細については1994年春に受験予定者に直接連絡します。

資料：1) 研修開始届（第15号様式）、2) 研修記録（第4号様式）、3) 日本人類遺伝学会・臨床遺伝学認定医制度に関する規則、同施行細則（人類遺伝学雑誌35巻3号、1990年）、4) 認定医の到達目標）人類遺伝学雑誌36巻1号、1991年）。

研修開始届、その他の書類の提出先

〒755 山口県宇部市小串 1144 山口大学医学部小児科学教室内 認定医制度委員会
Tel. 0836-22-2258 Fax. 0836-22-2257

(1993年4月1日 日本人類遺伝学会)

恒久制度による研修医試験制度について

1991年4月1日～10月30日の間に研修開始届けを提出した34名（と暫定制度から移行した1名）は1994年秋の第1回試験を受験する資格が生じます。同様に1992年1月～12月の間に研

修開始届けを提出した 33 名は、1995 年秋の第 2 回試験を受験できます。受験予定者の便宜のために試験の概要について記します。受験資格については本誌 36 巻 1 号巻頭の会告をご参照ください。

1. 期日：毎年秋（10 月末が多い）の大会最終日（土曜日）午後 1 時～5 時半。
2. 場所：大会会場またはその近く。
3. 試験：1) マルチプル・チョイスによる筆答試験：1 時～2 時半。2) 面接：受験者が経験した 2 症例（遺伝医学に関係する）のサマリーを提出しておき、これに基づいて面接試験官 2 名が 10～12 分、面接試問する。
4. あらかじめ提出する書類：1) 履歴書、臨床記録および研究業績記録（第 4 号様式）、2) 医師免許証（写）。3) 研修施設における研修（修了）証明書。

以上の他に、4) 自験例 40 例（一次診療の場合）または 20 例（二次診療の場合）の表示^a。

5) 面接試問用の 2 症例のサマリー。

^a 遺伝性疾患患者の診療（遺伝相談）を記載者が直接診療に関与する一次診療と、間接に関与する二次診療に分ける。診療の内容は通常の診察、治療から遺伝相談、染色体分析、遺伝子分析、出生前診断などを含む。自主的に関与した場合、チームの一員として関与した場合、診療の結果が陰性（例えば染色体分析をしたが核型に異常を認めなかった）の場合も含むこととする。

以上の条件を満たす過去 5 年以内の患者診察の記録を一次診療の場合は 40 例、二次診療の場合は 20 例を記入例に従って記入。できるだけ多方面の分野の症例を記入すること。

^b 4), 5) の記入用紙、その他の詳細については 1994 年春に受験該当者に直接送付します。

<付帯事項>

1. 受験者が 20 名に達しない場合は当該年度の試験は行わず、次年度回しとする。但し、2 年続けて 20 名に達しないときは、受験者の数にかかわらず 2 年目の試験を行う。
2. 受験資格期間は研修開始届けを提出した年度の 10 月末から起算して 6 年間とする。但し、この期間中に病氣療養、国外留学等の特殊事情の生じたときはこの期間を延長できる。
3. 上記の期間中（またはその以前）に国外留学し、遺伝医学に関係ある臨床または研究に従事したときは、2 年を限度として研修期間に算入できる。